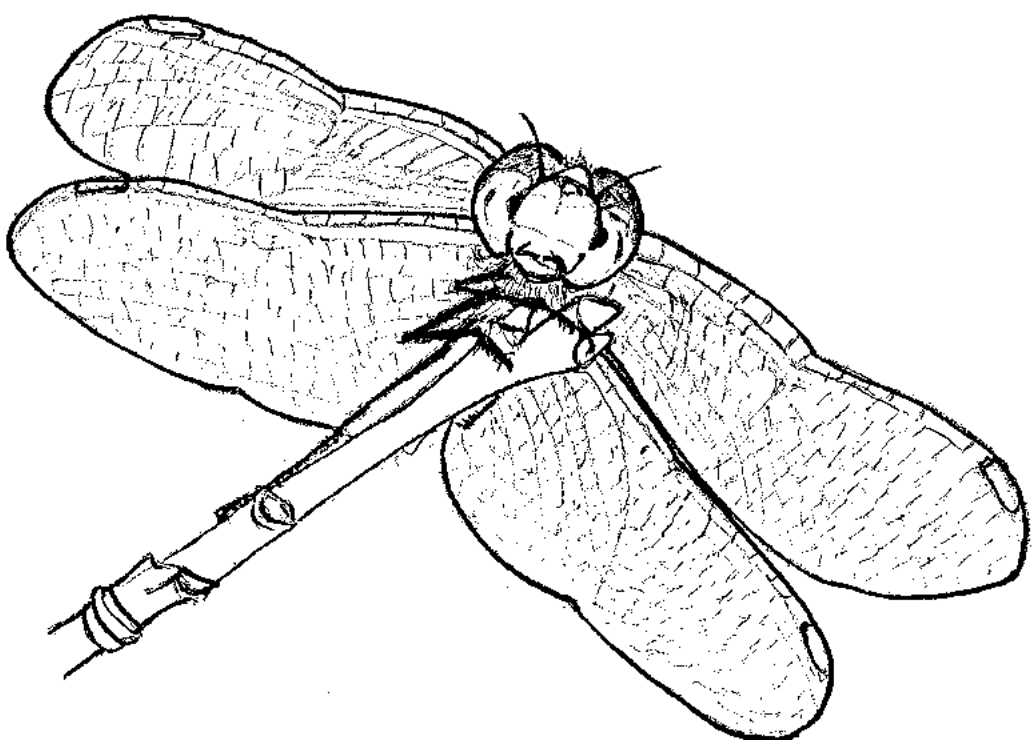


とうとう来た！サシバ川／いろいろ出てる！三番瀬秋の渡り ISSN 2185-632X

# すすがきも通信

認定N.P.O法人 行徳野鳥観察舎友の会 会報 221号

2016年12月1日発行



## やちよかん精神ここにあり！？

11月3日、恒例の「やちよかんまつり」が行われました。今年は本拠地の「やちよかん」こと野鳥観察舎が休館中で、実施そのものも危ぶまれましたが、秋晴れの下、多くの方でにぎわいました。観察舎の中が使えないので、規模は縮小せざるを得ませんでしたが、地元産物・グッズ販売、カフェ、鳥のマスコット色ぬりや木の実をつかった「野ゲーキ」、展示。カワオとカワエも大活躍。本当に多くの方々にご協力いただきました。

今年は、スタッフ側でも、満足度が高かったようです。例年以上に多くの会員やボランティアが駆け付けてくださったからですが、それだけではなかったと思います。ある意味、観察舎休館からくる「危機感」のようなものが、観察舎でのお祭りがはじまった当初の緊張感を生じたように思います。

皆さん、本当にありがとうございました。(清水 大悟)

## すずがも通信が新しくなります。

カラーページを導入します。乞うご期待！

新年より、すずがも通信がリニューアル。ページ数はコンパクトになりますが、その分、カラーを使った色鮮やかな誌面で、行徳の自然の魅力や会の活動を、香り豊かにお届けしていきます。どうぞご期待ください。なお、発行は偶数月の中旬となります。従来と半月ほどずれます。ご了承ください。(編集部)



真っ赤に色づいたトキワサンザシ



北国からアシ原に飛来するオオジュリン

## この1年のあいだに

昨年行徳野鳥観察舎が12月27日から無期限休館して以来、1年がたとうとしています。

緊急の打合せを重ね、会員の皆様に告知し、観察舎の必要性を要望書として提出し、パブリックコメントで意見を出し・・・けれど公から委託を受けてきた会としての立場を考え、我々の「感情」をすべて行動に移したわけではありませんでした。

その間、全国の多くの方がそれぞれの立場で観察舎を応援してくださいました。

複数の団体のみなさんが、観察舎の再生に関する要望や署名等の活動を実施し、地元の「行徳野鳥観察舎を愛する者一同」が得た署名数は2万に届こうかという数になっています。

観察舎の「跡地」利用は、県と市が「協議する」となっているものの、残念ながら、いまのところ前向きな情報は公表されていません。何らかの進展が、望むらくは良い方向の進展があることを祈っています。(清水 大悟)

### 蓮尾嘉彪 メモリアルクルージングのご案内 蓮尾純子

長い間、観察舎と保護区の活動を牽引して来た故蓮尾嘉彪さんの記念イベントのご案内を、蓮尾純子さんよりいただきました(編集部)

来年は夫蓮尾嘉彪没後満9年、10回忌にあたります。嘉彪の誕生日・告別式・翌年散骨であった1月29日を記念して、毎年嘉彪記念日ということで飲み会をやってきました。ちょうど来年は日曜日にあたることでもあり、散骨の時と同じコース・同じ船でのメモリアルクルージングを予定しています。

1月29日(日)午前10時～(おおむね12時ごろに解散) 雨天でもやります。

横浜港象の鼻パーク(大棧橋陸側) フェニックスクイーン号乗船

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kowan/guide/gaiyou/zounohana/>

参加費 3000円 申込 口頭・電話・メール等で蓮尾純子まで(1月15日締切を目途)

9年前の散骨時は雨まじりの曇天で、東京湾観音は見えませんでした。湾の中央あたりで2万羽を軽くこえるスズガモの大群の中を突っ切ることになりました。もう一度船に乗って散骨場所まで行ってみたいと思っていました。船は50名まで乗船できますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

## 寒っ? ~常勤スタッフによる保護区・観察舎情報~

雨が多く蒸し暑かった夏後半から涼しくなったと思う間もなく、過ごしやすい秋の陽気は短く一気に寒くなってきました。気候の変化が速くなっているように感じるこの頃です。

### ○保護区

草の伸びも止まって観察路の草刈りは一段落。夏の竹内ヶ原の管理作業は結局重機作業はほとんどできずに時間切れ。毎冬行っている浄化池の管理作業は今回4系列を行う予定で水を止め干上げ中。今年は三島池の汽水化実験による造成作業も予定しており、できれば上流側の百合池も手を入れたい所ですが、重機が入れるくらい地面が乾くかは未知数。

湊池棚田の稲はスズメにも食べられず(今年は群れを全然見かけません)順調に実り、9・10月のボランティアデーで稲刈りをしています。やちよかん祭りで脱穀し、わらは年末恒例のしめ飾りづくり等で使います。

カワウコロニーはコントロール区間や営巣やぐらの手入れを行っています。千鳥橋(ユニディ)側の住宅地に近い側にカワウが集まらないよう海側の枝を切り、空間にいくつかバルーンを上げてみました。今のところ抑制効果はある様子。ねぐらにはなっているも営巣にはあまり使われていないやぐらは、枝やかごなど取り付けて巣をかけやすいように改良してみています。

鳥の方は今年も猛禽天国(既に8種確認)。やちよかん祭り当日も4種飛んでいました。それに伴い保護区内のあちこちでカモやオオバンなどの食痕が見られ、変わったところではカンムリカイツブリも。オオタカの仕業でしようがどうやって捕まえたのか?海面それとも飛んでいるところを襲われた?

カモ類は一通りいるものの日中は多くありませんが、センサーカメラの記録などを見ると夜には浄化池などに結構な数が集まっているようです。シギ・チドリ類では渡り期にセイタカシギ・クサシギが浄化池等に入っていたのと、最近では

アオアシシギやタシギ、珍しいところではオオハシシギが 10 月中旬以降見られています。小鳥類はモズやジョウビタキ、アオジなど冬の代表的な種類が目立ってきましたがツグミはまだ少ないです。浄化池の水車周りではハクセキレイとセグロセキレイがほぼ居ついている模様。11 月上旬にはウソが見られたとか。ウソは年によって群れで冬中見られたり全くいなかったりと波のある種類ですが今年は当たるでしょうか。

#### ○その他

観察舎動向は進展なし。今秋は東京湾大感謝祭・JBF・東京湾海洋環境シンポジウム等色々で行徳を紹介する機会がありました。やちよかん祭りは晴天の下盛況のうちに終了。12 月は標識協会大会(23・24 日)、しめ飾り作り(25 日)、1 月には CCC(カワウカウント調査)を企画中。詳細は観察舎までお問い合わせください

文：野長瀬・山口 友の会 Facebook もよろしく

<https://www.facebook.com/npoFGBO>



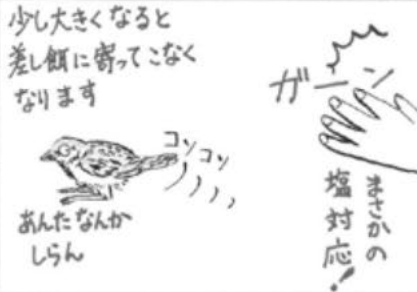
オオハシシギ(10 月 12 日)

新入会員 どうぞよろしくお願ひいたします！

グッズまだあります！



# スズメ



11月3日のやちよかん祭りと11月5・6日のジャパンバードフェスで集まった寄付金は93,541円になりました！ありがとうございます！  
野鳥病院の鳥達の治療や餌代、行徳鳥獣保護区の維持管理に、大切にに使わせていただきます。  
まだ少しグッズ残ってます！！

蓮尾純子氏お手製野鳥のぬいぐるみを着飾った季節写真カレンダー 500円

Tシャツ1枚 1500円

カワウがバーンと出てるデザインは  
濃紺色：XL  
明るい紺色：G-S

GYOTOKU ロゴの行徳の野鳥いっぱいデザインは  
白色：S、XL、G-S、G-M、G-L  
ショッキングピンク：S、L、XL、G-S、G-M  
※「G-」のつくサイズは女性サイズで小さめです。

来年の友の会会費と併せた金額を払い込んでいただき、カレンダーorTシャツ(色とサイズ)希望と通信欄に書いてください。先着順でなくなり次第終了となります。

# 野鳥病院新聞

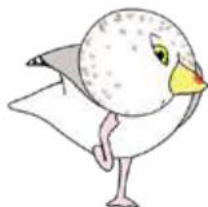
2016年(平成28年)  
9月～10月号  
第46号  
担当：さとゆ

## かわいい【大部屋編】

ほかのハトたちは床や天井近くの止まり木にいるのに、そのハトはなぜか人目線の高さが好き？スタッフがハトサイズのハンモックを作ってみたところ、いつもそこに納まっています。外から丸見えなのにそこが落ち着くの！？

セグロカモメの若いヤツ。嘴の先に羽をくわえてほおり投げ、床に着く前に再キャッチ！プールに水を溜めている最中もホースもくわえては離すを繰り返すことも。遊び好き！

緑色の瞳が綺麗なカワウ。朝ごはんが待ち遠しいのか、首を伸ばして体を左右に揺らしてゆ～らゆら。スタッフにアピール！



## かわいい？【中部屋編】

キジハトたちが羽根を片方だけ広げて床に横倒しに！！  
しかも、1羽だけではなく何羽も！  
どした！？何があった（汗）

・・・朝の陽ざしを浴びて日光浴の風景でした～。

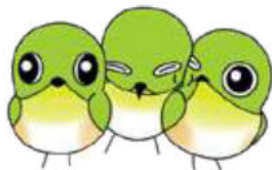


## かわいい【治療室編】

メジロといえば、枝に並んで仲間同士で羽繕いしあっている姿が定番。人の腰まで高さのある蚊帳をご寄付でいただいたので、飛ぶリハビリにもなるだろうと移してみました。

エゾムシクイもうまく飛べないので長期入院中。同居させて様子を見てみました。

姿が似ているし大きさもほぼ同じ。メジロは仲間と思ったのかエゾムシクイにむかって、ここ搔いて～と自分の頭や首を差し出しますが、想いが叶ったことは残念ながらまだ見たことないです。



## 9・10月 保護区の鳥の様子

川上正敬

2016年9月から10月の保護区鳥類調査の結果です。この二ヶ月で66種を記録しました。この時期は夏鳥、旅鳥、冬鳥が記録されたため種数がとても多くなりました。冬鳥の渡来時期や個体数の増減はほぼ例年通りの様子です。

《今季のトピックス》

1. 夏鳥のオオヨシキリ、ツバメは9月初旬、チュウサギは10月初旬まで見られました。
2. シギ科やヒタキ科などの旅鳥が保護区を通過していきます。14年ぶりとなるヨタカが見られました。
3. 10月中旬になると冬鳥の代表であるカモ科、タカ科や、ホオジロ科などの小鳥類がほぼ顔をそろえます。スズガモは一時1000羽を越えましたが、10月末には300羽ほどに減りました。小鳥類の渡来時期もほぼ例年通りです。ジョウビタキ（初認10/16）、ウグイス、オオジュリン（初認10/19）、アオジ（初認10/20）。

No.	科名	種名	9/3	9/10	9/18	9/24	10/2	10/8	10/15	10/23	10/29
1	カモ科	オカヨシガモ									○
2		ヒドリガモ						○		○	○
3		マガモ								○	○
4		カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5		ハシビロガモ	○					○			○
6		オナガガモ	○				○	○	○	○	○
7		コガモ			○			○	○	○	○
8		ホシハジロ			○	○		○	○	○	○
9		キンクロハジロ						○	○	○	○
10		スズガモ				○	○	○	○	○	○
11	カイツブリ科	カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12		カンムリカイツブリ							○	○	○
13		ハジロカイツブリ							○	○	○
14	ハト科	キジバト	○	○	○		○	○	○	○	
15	ウ科	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16	サギ科	ゴイサギ	○	○	○	○		○			
17		アマサギ						○			
18		アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19		ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20		チュウサギ	○	○	○	○	○	○			
21		コサギ	○	○						○	
22	クイナ科	クイナ									○
23		バン	○			○					
24		オオバン							○	○	○
25	ヨタカ科	ヨタカ					○				
26	アマツバメ科	アマツバメ			○						
27	シギ科	タシギ						○			
28		アオアシシギ								○	
29		クサシギ	○					○			
30		イソシギ		○		○				○	○



31		ユリカモメ									○
32	カモメ科	ウミネコ					○				
33		セグロカモメ					○	○	○	○	
34	ミサゴ科	ミサゴ								○	○
35	タカ科	トビ				○				○	
36		チュウヒ								○	○
37		ハイタカ								○	
38		オオタカ	○	○	○	○			○	○	○
39		ノスリ									○
40	カワセミ科	カワセミ	○	○	○	○		○	○	○	○
41	キツツキ科	コゲラ							○		
42	ハヤブサ科	チョウゲンボウ							○		
43	モズ科	モズ					○	○	○	○	○
44	カラス科	カケス								○	○
45		オナガ		○			○	○	○		○
46		ハシボソガラス	○	○		○					○
47		ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	シジュウカラ科	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
49	ツバメ科	ツバメ	○								
50	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	ウグイス科	ウグイス									○
52	メジロ科	メジロ			○		○	○	○	○	○
53	ヨシキリ科	オオヨシキリ	○								
54	セッカ科	セッカ	○			○					
55	ムクドリ科	ムクドリ	○	○	○			○	○	○	
56		コムクドリ		○							
57	ヒタキ科	ジョウビタキ									○
58		サメビタキ					○				
59		キビタキ	○				○		○		
60	スズメ科	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○	○	○		○	○	○
62		セグロセキレイ	○							○	○
63	アトリ科	カワラヒワ				○			○		
64	ホオジロ科	アオジ								○	○
65		オオジュリン								○	○
66	ハト科 (外来種 ドバト)		○	○	○	○	○	○		○	○
種数			28	22	21	23	21	30	30	39	42

# 屋久島やまがら便り その41(終)

## 夢の途中

屋久島に住んで、早7年余りが過ぎました。初めてこの島を訪れたのは1994年のこと。結婚当初から将来はどこか海と山のきれいな田舎で暮らそうと話していた私たち夫婦。最初はオーストラリアに移住って本気で考えていたのだけれど、30歳になり、親に何かあった時すぐ帰れないと困るし…等現実的になり始めた頃、そういえば屋久島ってどうよ？暖かそうだし、海に囲まれて九州最高峰もある。海には珊瑚礁、沿岸には亜熱帯植物が咲き、同時に山頂には雪が積もるってよ。なんだか日本列島をぎゅっと凝縮した感じでお得感あるよね！と急に思い立ち、まずは下見にと2週間前にツアーを予約して出かけたのが始まり。縄文杉など全く眼中にない、変わった旅行者でした。果たして飛行機の窓の外、晴れ渡る空の下、幾重にも山が連なる緑の島が姿を現し、空港からとりあえず乗った路線バスが横切った川の鬱蒼と木に覆われた景色が、新婚の頃行ったオーストラリアの Cape Tribulation Rainforest Lodge での最良の思い出を彷彿とさせ、河口の港からせいぜい1キロ上流の安房川の水の信じられない清らかさに感動したその時から、よし、絶対ここに住む！と心に決め、翌年2回目の訪問では既に物件巡りもしました。我ながら実に安易。以降休暇が取れば実家を飛び越して島へ出かけ、ミレニアムの年明けを馴染みのロッジの火鉢で鹿肉とスルメを炙りながら迎え、夏はロッジの横の川で泳ぎ、秋は山芋掘りに行き、知人宅を巡ってお茶を飲んで過ごし、ほとんど帰省感覚になってしまった15年の月日を経て、ようやく自分たちにとって初めての家を建て島暮らしに一步前進。知人からはよく思い切ったねえと言われるのですが、当の本人たちはやっという感じでそれほど思い切れてもないし、まだまだ何もできていないなあというのが本音。夫ははまだ東京と二重生活です。たぶん住むこと自体は結構簡単。難しいのはいかに続けるかなのです。

幸いこれまでのところ、この選択は正解だったと思っています。離島ゆえの不便(なんでも輸送費がかかり競争が少ないので物価が高い。「但し離島は除く」という言葉に泣くこともしばしば)はありますが、私にとっては人が少なく楽だし、却って欲しいものが手に入りやすい便利な所だとも思います。実際住んでみてびっくりしたことはいろいろ。以前テレビで鹿児島島の博物館の『ブキミな生き物展』という企画の紹介をやっていたのですが、「そんなん全部フツーに家におるやん」と思う自分がいて苦笑したり。22年たってなお、驚きと発見があり飽きません。屋久島ではこのところ新種のランの仲間が立て続けに発見されているんですよ。それを発見したプロの写真家さんはうちの2軒先のご主人。なんかすごいでしょ。余談ですが、国内絶滅種のハシブトゴイが、9月に安房川上流沿いの林にいるのをあるガイドさんが発見し、別のガイドさんが撮影に成功されてました！東南アジア辺りからこっそり訪れていたらしい珍客に、一部の人の間でひっそり盛り上がりました(笑)。この

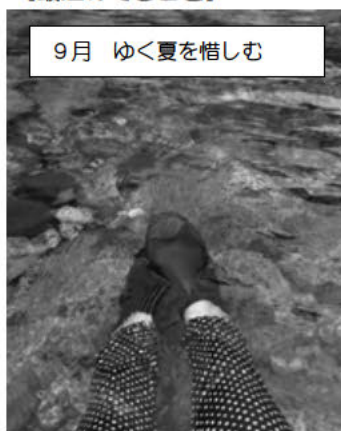
島に惹き付けられてやってきた様々な面白い人たちとの出会いがあったり、十数年会うこともなかった旧友たちが訪ねてくれて再会を果たし、その後もいい交流が続いていたり。それもこれも屋久島だったからこそなんだよなあ、と思うのです。そう思えるのはとても幸せなことです。

そして今、自宅の横に茶屋を建てるというもう一つの夢に向かって進み始めました。これも最初に思いついてから15年近く。私には何をやるにもふん切りがつくのにそのくらい時間が必要みたい。何事も形から入る私、屋号だけは15年前から「やまがら屋」に決めます。ヤマガラはこの辺りで年中見られる一番普通の鳥。当たり前の自然が当たり前にあり続けることの難しさとその幸せ、どこか遠くの貴重な世界遺産ではなく、家のまわりにある小さな自然こそがかけがえのない宝物であることを忘れないように。訪れるお客さんには縄文杉やもののけ姫の森を忙しく見て回って屋久島制覇！じゃなくて、私が大好きなゆっくり過ぎる屋久島時間を楽しんでほしい。そんな思いを込めたつもりです。実現に向け希望に燃えています、と言いたいところですが、実際は期待より不安で胸いっぱい。なんでこんなこと始めちゃったのかしら、と思うことさえ。先が思い遣られます。が、もうちょっと頑張って働くよ、という理解ある夫(笑)といつも応援してくれる友、雰囲気と思いつきの私の話を親身になって聞いてくれて、できることは全部自分でやりますと言ってくれる、とにかくモノ作りが大好きな頼もしい若い大工さんに励まされて前を向いています。完成は来年の春だか夏だかそのあたりの予定。

足掛け8年続いた「屋久島やまがら便り」ですが、今回で筆を置くことになりました。まさかこんなに続くとは。長きに渡り、拙文にお付き合いいただきありがとうございました。ここまで続けてこられたのも、いつも温かい言葉でおだて、励ましてくださった清水編集長のお蔭です。心から感謝申し上げます。いつも締め切り破ってばかりですみませんでした。続きはお店の Facebook ページか何かで？ ちゃっかり宣伝。ウソ。どこまでも風まかせで参ります。それではまた、いつかどこかで！ 閉店ヤマガラガラ…。

(2016年11月12日・瀬戸山瑞香)

【最近のできごと】



## 「ニャーのこれまでヨ！」

文 町田 安男

絵 清水 大悟

月並みの言葉を並べると、時のたつのがやたらに早く感じられる季節とはなりました。

季節の移ろいは例年の如く、神さまのスケジュールどおりに進んで桜はあらかた落葉、ススキも黄色が濃くなり、スズメウリは透明なブルーに、センダングサ、オーオナモミ、イノコズチ、など草刈りのお邪魔虫の実が目立つ時期になり、枯れ草に霜柱が立ち、渡り鳥たち、ワシ・タカたちの世界が出現、バーダーのウキウキする顔がそこかしこに見られるのもすぐそこ！

一方水の中ではまだ秋前半。風呂田先生の江戸前干潟の学校の採集魚にはまだマハゼなどハゼ類が大漁、毎回1000匹に届く位採集されて子供たちの歓声がにぎやか。80cmから90cmほどのスズキなども入り、夏期にはタツノオトシゴの仲間のヨーヅウオも観察されたほど新浜の海は豊かで、まだ楽しめます。

淡水魚はもうかなり冷え込んできたせいかウナギは見られずモツゴ、スジエビなどが比較的多く、海に比べて少しエモノがさびしくなったようです。

陽光が射してまぶしい暖かくなった水面には今年非常に増えたウシガエルの幼がそこかしこに跳び回りさびしくなった池などをにぎやかにしていますが、特定外来種に指定されているのでカダヤシと同じように駆除をと考えているようですがまだこれといった名案は無いのが現状です。

何しろ早いので捕獲することが至難の技ですから・・・

冬眠しているところでも思っても彼等は水の中なのでやはりあきらめて、あとはタヌキに任せた方が良いでしょう。

池周りのシロバナサクラタデとサクラタデはまだ咲き続け、これから咲くノコンギクとタッチ交代します。

今年は例年なら寒っているキカラスウリの姿が全く見られません。前述のスズメウリは細々と？有るのですが、カラスウリと同じように残念な結果となっています。

これからツクシなどが頭を出す頃までずっと冬が続いて色彩がとぼしいシーズンが続くだけと思われるでしょうが、これが大きい、ヒザをつけて見ると動けない植物がもう春を待っているのがわかります。

そしてニホンアカガエル、アズマヒキガエルが姿を見せる春が来ます。

今年はニホンアカガエルが記録的な産卵数でしたが。



ニホンアマガエルは少しで他のカエルは目にすることが無かったのが残念です。その内にトーキョーダルマガエルがとまっているのですが、トーキョーダルマガエルはウシガエルに、アズマヒキガエルはタヌキにそれぞれ捕食されてしまうのが気がかりです。

### 閑話休題

このところ友の会の行事が続いて、スタッフ全員が疲れ気味乍ら何とかこなしているものの、健康にもう少し気を配って欲しいと思うのが年寄りのとり越し苦労なら良いのですが、このまま大きな負担を担わせて過すことで、やがてマイナス面が出てくるようでどうも引っかかるのです。

対外的なイベント参加に区内外の行事が加わることで休みがとれなくなるような現状は改めなければ、若きだけで切りぬけないのは目に見えています。



先日行われた「やちよかんまつり」にはかなりの友の会会員が参加されたことで盛會に終えることができ、これからも会員参加により、常勤スタッフの負担を軽くすることができる、目安がたつということが証明されたようです。

今回だけでなく、友の会のメンバーが積極的に各所で協力されることが何より大切だと思われるのです。

役員などが世代交代して一新した現在が絶好のチャンスでしょう。

### ※ヒゲのひとこと

ついに来る日が来ましたなんて大袈裟なことを云うつもりは毛頭有りませんが、とりあえずご挨拶を！

今般、新スタッフに若返りして、旧態を一新、会報もリニューアル、ニャーも引退することになりました。

拙文に永らくおつき会いくださった皆様に心から御礼申し上げます。

まさに「魚の目に水みえず」の諺どおりのことばかり書き散らしての仕業に、汗が出る思いです。

これを引き受け書き始めてからも保護区を取り巻く環境にも種々変化が起き、現在はこれ以上悪くならないようにと祈るような日々が続いているのが心痛の種です。

今回、ジュンペイはお休み、全てヒゲが代筆しました。

では又、お会いするのを楽しみに。

### ※ニャーのひとこと

がんばらず、はりきりすぎず、あきらめず。ゆっくり前へこれで長生き！

# 保護区 秋の植物と昆虫たち



ウラギク



アケビ



オオキノメイガ



ホソヒラタアブ



キバラヘリカメムシ

# 屋久島サシバの渡り調査 2016～サシバの川～

山口 誠

こんにちは。スタッフの山口です。今年も屋久島でのサシバをメインとしたタカの渡り調査を行ってきましたのでご報告いたします。

屋久島は鹿児島県の佐多岬から南に約 60 km にある周囲約 100 km の島です。縄文杉をはじめとする屋久杉や世界自然遺産として有名です。サシバはカラスより一回り小さい中型のタカで、日本で繁殖し東南アジアで越冬しており春と秋には移動の為渡りをします。その際台湾や諸島伝いに移動していくので屋久島もそのルート上になるのです。こちらでは秋の渡りに合わせて調査を行っています。

今年の調査は 10 月 5 日～11 日の 7 日間。毎年どこかしらで台風に当たりますが、今回は行きがけに猛烈な台風 18 号に向かっていくことになりました。幸い飛行機は無事飛んで屋久島には到着できたものの、調査初日の 5 日は台風の影響による雨のため調査はできず。とはいえ、こういった場合は台風通過後天気回復とともに一斉に渡る人が多いのでそこに期待していたのですが、今回はそれが大当たりとなりました。

翌 6 日、朝の段階で雨は上がったものの思ったより天気は回復せず曇り空でしたが断続的に数十～数百羽の群れが渡っていくのが見られ 6 時から 13 時頃までの合計で約 3000 羽になりました。例年 1 日で 1000 羽を超えれば当たりの方なのでこの時点でもかなりの大当たりだったのですがこの日のメインはこれからでした。14 時を過ぎて雲も上がり晴れてきたもののしばらくはサシバの出現も少なく、今日はこのぐらいで終わりかと思っていたその時、東から今まで見たこともないようなサシバの大群が現れました。見渡せる場所のどこにもサシバがいるような状況になり、観察しているすぐ近くで巨大なタカ柱をいくつも作り西から南の海上へ渡っていきます。ものすごい数のサシバが気流に乗り同じ方向へ滑空して流れていく様子はまるで川のように圧巻でした。慌てて数えたもののカウンターを押すのが間に合わないほどで、結局この時は約 1 時間で 3000 羽以上が渡っていきました。

この日は 6162 羽の渡りを観察しています。過去の記録で 8000 羽というのがあり、次いで 2 番目の記録ですがその時僕は見られなかったので個人的には最高記録となりました。

今回はその後も大きな渡りが何度か見られ、調査期間中の渡りは 10000 羽を越え例年に比べてもかなりの当たり年となりました。その一方調査期間後半は屋久島の天気は悪くないものの以南の天気がすぐれないこともあり、一部が南海上から島に戻って来たり島から離れず右往左往していたりと若干迷走気味な様子も見られています。

今回見られた光景はそうそう巡り合えるものではないですが、いつかまた見られたらいいなと思いました。

渡り期には各地で調査が行われており、その情報は

「タカの渡り全国ネットワーク」

<http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>

HP 上で見るすることができます。屋久島の情報もありますので興味のある方はご覧ください。





# 身辺雑記帳

## 夜明け

蓮尾純子

そろそろ6時、ようやくあたりが白々と明けてきました。今朝はとても寒くてコタツばかりかヒーターもつけました。季節の移り変わりのめざましいこと。

5月から日曜ごとに、1周約3キロのウォーキングコースで、1時間ほどかけて鳥のカウント（ロードサイドセンサス）をやっています。すぐ近くの白鷺公園でお仲間とやるラジオ体操が6時半。その前に済ませていたのに、10月以降は体操の後に。まだ暗くてスズメも起きてこない！ 暑い時期は水門のところで40頭以上も集まっていたカメさん（ほとんどがミシシippアカミミガメ）、気温の低下とともに減って見かけなくなりました。代わって冬の小鳥たちが出そろい、カモやカモメも増えています。咲き次いだ花々もあらかた終わって、目下は木の実が美しく色づく時期。紅葉、落葉も本番へ。

日曜朝の周辺カウントと、月だいたい3回程度のカワウカウント（12月～6月の繁殖時期には加えて週2回の営巣状況調査）、それに毎月の掲示「みつけてね」・配布物の「今月の野鳥観察舎」作りが今の私のお仕事です。保護区管理や野鳥病院等の現場作業からはほとんど足を洗って、水曜が義務としての（ペイあり）出勤日。月火木は基本はお休みで、助っ人が必要な時に出るくらい。金土日は管理棟でのお留守番（というより必死にデータ入力）。みんなが現場に出払うと、さっと室内のお掃除を。

パソコン仕事は無限にあって、やっている調査の入力ととりまとめに加え、昨年からようやく手をつけはじめた「毎日の鳥記録」、模造紙に1カ月1枚分の記録が41年分（490枚）。

色々な人に手伝っていただいたのですが、これは蓮尾純子がやるべき仕事、と思い定めました。1980年代のうち3年分がもうすぐ終わります。1カ月分の入力におおむね10時間（もっとか？）。少々悲しいのは、ここ2、3年の1カ月分入力は、4、5時間で終わってしまうこと。30年前に比べて水鳥類が格段に少ないためです。それでもタカ類や小鳥類、クイナなどの記録はむしろ増加。面白いことに、1980年代はハシボソガラスが毎日記録され、ハシブトガラスは時たまだったのが、完全に逆転。面白いことはまだまだいくらかでもあるので、ともかく41年分の入力、がんばる。1980年代の3年分が終わったら、1990年代と2000年代を3年分ずつやってみようかな、と。

6時半からマゴ4人が次々に学校へ。猫どもの小競り合いもほぼ終わって、ひざ猫のあいちゃんコタツでパソコンの静かなひと時。早いとこ原稿を終わらせて、テレビの韓流時代劇とせんたくばさみのハクビシン作りに戻るぞーっ。

さて、ほとんど「すずがも通信」の歴史と同じくらい長きにわたって、毎回何かしら書かせていただきました。連載はこの号がさいごになります。みなさま、長い長い間お付き合いいただいたいてありがとうございます。次号からはすずがも通信の体裁も機能もリフレッシュ。それでもどうぞお見捨てなく、明るい未来に向けての応援をよろしくお願いいたします。

## 2016年 9・10月 活動報告

市川市・千葉県等、他団体主催行事含む。定例観察会は除く

- ・ 9/3(土)昆虫観察会 講師：恩田幸正さん 参加 36 名  
ロシアコクガン調査報告会 行徳公民館第 5 研修室 参加 32 名
- ・ 9/10(土)浦安鳥類カウントカウント
- ・ 9/17(土)周辺緑地除草用ヤギ返却
- ・ 9/25(日)職場体験実習打合せ：浦安市美浜中  
校外授業打合せ：行徳高校
- ・ 10/1(土)三島池作業について：茨城大加納さん・東邦大中山さん・常勤 3 名
- ・ 10/4(火)江戸川放水路水面等利用者協議会
- ・

### 取材・打合せ等

- ・ 9/25(日)NHK 千葉放送局：江戸前干潟研究学校取材(10/4 放映)

### 団体・学校利用

- ・ 9/16(金)真間小学校 3 年生 94 名
- ・ 9/16、21、23、26、27 日行徳高校 1 年生(1 クラスずつ。計 169 名)(緑の国)
- ・ 9/26(月)浦安介護予防アカデミア 26 名(緑の国)
- ・ 10/14(金)南新浜小 2 年まちたんけん 16 名

### 特別企画行事

- ・ 9/22(木)谷津干潟自然観察センター「東京湾の自然展～行徳鳥獣保護区編～」  
保護区紹介ポスター展示(～10/30)
- ・ 9/24(土)行徳生物多様性フィールドミュージアム「植物の色々」参加 19 名  
講師：柳澤かほるさん・植物班
- ・ 9/25(日)江戸前干潟研究学校 参加 20 名
- ・ 10/21(金)～23(土)東京湾大感謝祭(横浜赤レンガ倉庫)
- ・ 10/30(日)江戸前干潟研究学校

以下の方々から**賛助会費・寄付**を頂戴いたしました。どうもありがとうございます。  
今後とも、どうぞよろしく願いいたします。(9月・10月分)

**行事のご案内** どなたでも参加できます。冬の水辺は風が冷たく寒いです。暖かい服装でご参加ください。

本欄と併せ、ブログ「行徳野鳥観察舎日記」をご参照ください。 <http://suzugamo.seesaa.net/>

## ☆巣箱をかけてみよう! 12月4日(日) 13時~16時

集合：野鳥観察舎前 観察舎付近から緑の国まで足をのびし、巣箱をかけてみます。  
対象：小学生以上の子供と保護者 定員 10 組。要申し込み。持物：動きやすい服装、軍手など（巣箱などの材料はこちらで用意します）参加費：大人 200 円、中学生・高校生 100 円、小学生以下無料  
お問い合わせ：申し込みは行徳野鳥観察舎（047-397-9046）まで  
※ちば環境再生基金助成事業です

## ☆日本鳥類標識協会大会 12月23日(祝)、24日(土)

全国的な組織の大会が、今年行徳を舞台に行われます！  
23日午後(13時~)と24日午前(9時~)は、南行徳市民談話室多目的ホールにて標識調査についてのシンポジウムや講演、24日午後には、保護区や近隣の東京湾岸湿地のツアー、標識調査の見学などを行います。★一般参加歓迎。参加費あり。  
詳細は、行徳野鳥観察舎（047-397-9046）まで

## ☆冬の公開講座 しめ飾りづくり 12月25日(日) 10時~12時

毎年人気の行事です。定員は当日先着 75 名。会場は観察舎付近。雨天中止 f r す。  
詳細は、行徳野鳥観察舎（047-397-9046）まで

## ☆新春自然観察会 1月1日(祝) 集合：午前6時40分 行徳野鳥観察舎前

新春のすがすがしい朝の鳥たちを観察します。遠くの富士山を背景にとタカが舞うことも。  
さあ、縁起の良い新年のスタートは行徳自然保護区から！！  
参加費用：200 円 お問い合わせは行徳野鳥観察舎（047-397-9046）

## ☆水鳥カウント 1月15日(日) 朝8時 保護区入り口(白鷺公園方面)集合。

保護区や三番瀬の水鳥を数えます。鳥の種類が華やかな時期。何種類記録されるかな。  
詳細は行徳野鳥観察舎（047-397-9046）まで。ご気軽にどうぞ。

## ☆三番瀬自然観察会(船橋) 12月4日(日)

集合：船橋海浜公園バス停 10 時 解散：14 時ごろ。交通：京成船橋駅南口（JR 船橋駅南口より徒歩 2 分）より船橋海浜公園行きバス乗車、終点下車。または JR 京葉線二俣新町駅より徒歩 25 分（バスもあり）  
持物：弁当、飲み物、帽子、雨具、長靴（または濡れてもいい靴）、観察用具など 参加費：200 円  
主催：千葉県野鳥の会 問合せ：田久保（XXXXXXXXXX）。  
三番瀬の海で冬を越すいろいろな水鳥たち。カモ、カイツブリ類、そして名物ミヤコドリも期待。  
※1月以降の予定は主催者までお問い合わせください。

## ☆CCC (クリスマス)・コーモラント・カウント~

12月の恒例、カワウなど水鳥調査のイベント。今回は年明け1月に行います。クリスマスは過ぎちゃったけれど、ぜひご参加を。日時等の詳細は行徳野鳥観察舎（047-397-9046）まで。

## 保護区の観察会のご案内

どなたでもご自由に参加できます。

観察舎前に広がる保護区の中には、以下の観察会などで入ることができます。多少汚れてもよい靴で。

冬の水辺は風が冷たく寒いです。暖かい服装でご参加ください。（保護区内にはトイレ、水飲み設備はありません。）

### ☆定例園内観察会（毎週日曜、祝日）

\*事前に観察舎で名簿にご記入ください。

集合：行徳野鳥観察舎前 13時30分 解散：15時30分ごろ。\*雨天中止

問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046） 協賛：行徳野鳥観察舎友の会

冬枯れの草原。小鳥たちを待つ色とりどりの木の実。カマキリの卵やモズのハヤニエも見つかるかも。

### ☆定例新浜観察会（毎月第2日曜日）

12月11日（日）、1月8日（日）、2月12日（日）

集合：地下鉄東西線 行徳駅前（改札を出て左前方の広場） 10時

2コースに分かれます。「新浜保護区コース」は保護区の中をゆっくり回り、13時30分ごろ解散。「放水路経由コース」は、バスで江戸川放水路へ、その後保護区を巡り、15時30分ごろ解散。解散場所はいずれも観察舎。

主催：行徳野鳥観察舎友の会、日本野鳥の会東京支部、千葉県野鳥の会。 問合せ：観察舎（047-397-9046）

参加費：200円（18歳以下は無料） 持物：昼食、飲物、帽子、放水路経由コースはバス代400円（子供200円）

冬鳥たちがそろう。カモ、カモメ、藪に潜む小鳥たち、そして、空をよぎる猛禽類！ お楽しみに。

### ☆夕暮れ観察会

12月24日（土）、1月28日（土）、2月25日（土）

集合：行徳野鳥観察舎前 16時（2月からは16時30分となります） 解散：18時30分ごろ。

主催・問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046） \*小雨決行

夕空をバックにオナガやツグミが枝先に群れ、カモが飛んでいきます。クイナの声はきこえるでしょうか。

### ☆平日観察会

12月1日（木）、1月5日（木）、2月2日（木）

集合：行徳野鳥観察舎前 10時 解散：正午ごろ \*雨天決行

主催・問い合わせ：野鳥観察舎（047-397-9046）

ベージュのススキに緑のマツやカシの木立。サクラやエノキは凜とした枝を冬空にひろげています。

### ☆毎月第4土曜日はボランティアデーです。

12月24日(土) 1月28日(土)

13時から16時ごろまでの予定です。

観察舎スタッフと保護区の管理作業をしてみませんか？参加ご希望の方は、事前に行徳野鳥観察舎（047-397-9046）までお問い合わせ下さい。天候によっては室内作業になることも。

**編集後記** ☆編集担当は新年からフレッシュな若手にバトンタッチ。これまで本当にたくさんの方々の方で支えていただき、ありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。本誌を今後ともどうぞよろしく願いいたします。(D)

すずがも通信 No.221(隔月発行)

2016年12月1日発行

発行所 認定特定非営利活動法人行徳野鳥観察舎友の会

E-mail tomonokai\_suzugamo@ybb.ne.jp

年会費 賛助3000円以上、普通2000円、電子1000円、ジュニア(18歳以下)500円、法人・団体10000円以上

郵便振替

URL <http://gyotokubird.wix.com/npofgbo>

編集 清水大悟、若林直樹、西方明雄、岩崎加奈子（庶務）

印刷 株式会社 オフィス ティースカイ

[千葉県行徳野鳥観察舎(休館中) 〒272-0137 市川市福栄4-22-11 TEL 047-397-9046 ]